

大学の世界展開力強化事業（平成26年度採択）中間評価結果表

大 学 名	長岡技術科学大学
整理番号	i-2
事 業 名	長期インターンシップ実績を活用した南インドとの共同実践的技術者教育プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">A</div>	これまでの取り組みを継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) <p>本事業は、インドの相手大学の強みと長岡技術科学大学の特徴を活かしながら、世界で活躍できる実践的技術者を養成することを目的として、単位互換、共同研究、課外活動など様々な取組を有機的に組み合わせた共同教育プログラムが構築されており、ダブル・ディグリー・プログラムから将来的にジョイント・ディグリー・プログラムへの展開を目指す意気込みが感じられる取組である。</p> <p>相手大学のシラバスを丁寧に確認し、科目の対応関係、派遣期間内での受講可能性及び単位換算方式の検討を行うなど、単位互換制度の構築にあたり具体的な連携が計画どおりに行われており、質の保証を伴った学生交流が進められている点が評価できる。また、相手大学との学位審査手順の違いを明確にした上で、アカデミックカレンダーを考慮した複数の留学パターンのモデルを検討するほか、修了時期を遅らせることなく修了要件単位の取得を可能にする体制を整えるなど、制度的な違いを調整するきめ細やかな工夫や参加学生に対する配慮が随所に見られることから、交流プログラムの持続可能性という面でも期待できる。</p> <p>また、インターンシップ制度については、これまでの実績に基づく丁寧な取組が進められていることは評価できる一方で、今後インターンシップに参加した学生に対しどのように評価を行い、具体的にどのような成果がみられたのか明らかにしていくことが望まれる。</p> <p>中間評価までの交流学生数について、派遣・受入ともに数値目標をおおむね達成しており、日本人学生の派遣においては、留学に対する多様な動機づけを実施するとともに、プログラム活動支援のための特任教員、コーディネーター等を配置するなど派遣前後のサポートも充実している。</p> <p>今後は、ダブル・ディグリー及びジョイント・ディグリーについて相手大学との協議を継続して行うことで当初計画の実現に努めるとともに、良い取組については積極的に情報公開して、他大学との情報交換に活用することが期待される。</p>	